

製品名: PRAS40 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab16459**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	40kDa

抗原情報

遺伝子名	AKT1S1
別名	AKT1S1; PRAS40; Proline-rich AKT1 substrate 1; 40 kDa proline-rich AKT substrate
遺伝子 ID	84335.0
SwissProt ID	Q96B36
免疫原	抗血清はヒト Akt1 S1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 207-256

背景

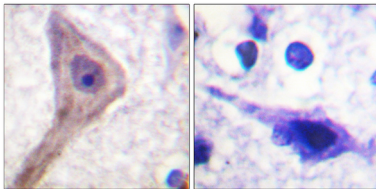
AKT1S1 は、AKT (MIM 164730) のプロリンに富む基質であり、リン酸化されると 14-3-3 タンパク質 (YWHAH、MIM 113508 参照) に結合する (Kovacina et al., 2003 [PubMed 12524439])。[OMIM 提供、2008 年 3 月]、機能: ホスファチジルイノシトール 3

キナーゼ (PI3K) -AKT1 生存シグナル伝達において重要な役割を果たす可能性がある。AKT1 リン酸化の基質であるが、AKT1 非依存的なメカニズムによっても活性化される可能性がある。生存シグナル伝達経路におけるその役割は、酸化ストレスによって調節される可能性がある。神経成長因子を介した神経保護にも関与している可能性がある。細胞内局在：脳の細胞質分画に存在する。サブユニット：リン酸化型は 14-3-3 と相互作用する。組織特異性：広く発現しており、肝臓と心臓で最も高い発現レベルを示す。癌細胞株 (例：A549、HeLa) では、正常細胞株 (例：HEK293) よりも高い発現レベルを示す。

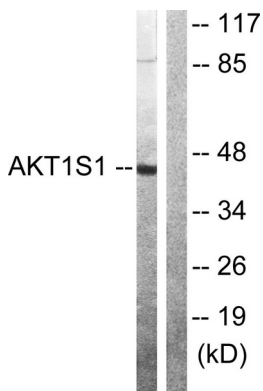
研究分野

細胞生物学

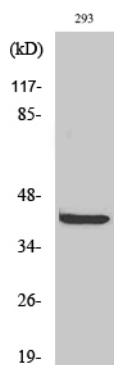
画像データ



Akt1 S1 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像。



Akt1 S1 抗体を用いた 293 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



PRAS40 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析